

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	保育施設における地域開放の展開にみる地域に開かれた保育空間の実践とその意義
Title(English)	
著者(和文)	藤田悠
Author(English)	Yu Fujita
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12917号, 授与年月日:2024年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:那須 聖,斎尾 直子,真野 洋介,坂村 圭,沖 拓弥
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12917号, Conferred date:2024/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

## 論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	藤田 悠	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	那須 聖	教授	沖拓弥	准教授
	審査員	斎尾 直子	教授		
		真野 洋介	教授		
坂村 圭		准教授			

### 論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「保育施設における地域開放の展開にみる地域に開かれた保育空間の実践とその意義」の題目のもと以下の6章から構成されている。

第1章「序」では、近年保育所やこども園でみられる地域住民に門戸を開く多様な取り組みを地域開放と総称し、保育環境を維持するための空間的な工夫を要する点、これまでと異なる様々な保育の場面を生んでいる点から保育空間の新たな実践として注目されることを述べた上で、園児や保育に関わるステークホルダーに主眼をおいた意義が明らかでないこと、保育施設計画における議論が十分でないことを指摘している。以上を踏まえ、日本における保育施設を対象として行政・施設・住民それぞれからみた地域の位置付けを踏まえた上で、実践例の保育における具体的な空間運用とその価値を明らかにし比較対照することで、地域に開かれた保育空間の実践手法とその意義を総合的に考察することを本論文の目的として示している。

第2章「少子化対策関連施策方針にみる保育施設と地域との関係の志向」では、少子化対策関連施策方針に関する国の行政文書28件を対象とした文献調査から、行政の構想する子育て環境の変遷を捉え、その中で志向されてきた保育施設と地域との関係を検討している。1990年から2020年までを9つのフェーズに分割し、それぞれの重点施策の分布を典型的にみることで、保育施設と地域との関係について、保育施設が在園家庭に限らない地域全体を支援することが早くから具体的に目指され、その後、子育て支援に地域の力を生かすため保育施設を開かれたものとし多様な主体に参加を促す構想が示されたものの具体化には至らなかったこと、それと並行して、設置運営主体に関する規制緩和や立地に関する規制緩和が段階的に続けられ、保育施設と地域との接触機会の可能性は増加・多様化の一途を辿っていたことを明らかにしている。さらに第10フェーズとしてこども家庭庁の創設以降を取り上げ、第1から第9フェーズまでの重点施策と対照することでその特徴としてのこどもを中心とした社会への施策転換を位置付けている。

第3章「東京都特別区内保育施設における地域開放の実態」では、東京都特別区内保育施設845件を対象とした悉皆アンケート調査の回答169件から、2019年度中に対象保育施設が実施した園外からの立ち入りを受け入れる機会310件の活動の内容および来訪者の属性を整理し、それらの組み合わせに基づき抽出した地域開放278件を分析することで地域開放の実態を検討している。活動の類型それぞれに対する来訪者のタイプの広がりや、園ごとの活動の広がりやを分析し、第2章の結果と対照することで、実際の保育現場では行政の志向では明確に示されていない多様な地域との関わりがあることを明らかにし、保育施設における地域開放が社会的要請への対応にとどまらない保育施設の主体的な意図により実施されているものと考えられることを指摘している。

第4章「保育所建設反対事例にみる保育施設に対する地域住民の認識」では、1945年以降の全国版のおよび地域版の新聞記事619件を対象とする文献調査から抽出した、保育所に対する建設反対事例15件について、住宅地図から得た立地周辺環境ごとに記事記載内容を整理することで、保育施設に対する地域住民の認識を検討している。保育所への建設反対のピークが1970年代と2010年代後半に確認できることを示し、後者における記事記載内容の傾向を第2章の結果と対照することで、自らの地域の交通や需要に合わないものとして保育施設を捉える地域の認識等を見出すとともに、第3章の結果との対照から、保育施設を必ずしも自らに関係するものと捉えているとは限らない地域の多様な人々と能動的に関わりをもつ保育施設の実践として地域開放を位置付けている。

第5章「地域開放の具体事例にみる地域に開かれた保育空間の実践とその意義」では、東京都特別区内における保育施設6園を対象に2019年と2024年に実施した訪問インタビュー調査から抽出された地域開放の具体事例12件について、保育における価値を明らかにし、それを成立させる空間運用との対応から地域に開かれた保育空間の実践とその意義を考察している。間仕切り等を動かし園舎内の広い空間を活かす、仮設的な設えにより用途を転換する等、保育空間そのものを開く運用の工夫とともに、非対称なセキュリティにより保育空間の近くに地域の人を招き入れることを可能にする等、具体的な運用を織り込んだ計画による工夫を見出し、開かれた保育空間の実践について、園児の育ちや保育士のやりがい等、保育に関わる多様な意義を明らかにしている。

第6章「結」では、各章で得られた知見を総括した上で、保育に関わるステークホルダーの視点にたった地域開放の意義および保育空間の実践における役割と今後の展望について述べている。

以上を要するに、本論文は、保育の資源・環境としての施設外の地域、地域活動の資源としての保育施設という、保育施設と地域の関係の近年の動向とその推進に対し、地域開放を行政・地域住民・保育施設の運営主体という異なる社会的立場から捉えた上で、施設内においても地域との関わりを認識させる空間実践の保育における意義を明らかにしたものである。従って、今後の保育施設における地域との関わりを再定義し保育施設および保育実践それぞれの計画に寄与する研究として、建築学および工学的な貢献が大きく、博士（工学）の学位論文として十分な価値があるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。